

みやぎ農業試験研究120年の歩み

名取郡茂ヶ崎時代

明治36年4月 名取郡茂ヶ崎村（現仙台市太白区長町）に「宮城県農事試験場」が設置され、本県の農業試験研究が開始（令和5年度で120周年）。



明治41年4月 「宮城県立農事試験場」に改称。

名取郡岩沼時代

大正10年4月 農事試験場を名取郡岩沼町（現岩沼市）に移転。「農事試験場分場」を古川町（現大崎市古川諏訪）に新設。



本場(岩沼)



分場(古川)

昭和19年4月 「宮城県立農事指導所」と改称。

昭和21年4月 「宮城県立農業試験場」と改称。

仙台市原町時代

昭和28年4月 仙台市原町（現仙台市宮城野区幸町）に移転し、農機具、経営、畜産及び林業の各部門が増設され、総合的な農業試験場となる。



昭和45年4月 林業部門が「林業試験場」として独立（大衡村）。

昭和48年4月 新しい農業情勢に対応するため、試験研究施設を整備し、農業試験研究機関の連絡調整機能を整え、「宮城県農業センター」として名取市に移転。同時に「園芸試験場」（名取市）、「古川農業試験場」（現大崎市古川諏訪）及び「畜産試験場」（現大崎市岩出山）が独立。

名取・古川・岩出山時代



農業センター・園芸試験場



古川農業試験場



畜産試験場

平成11年3月 試験研究再編の一環として古川農業試験場が現在地（大崎市古川大崎）に移転。



現在（再編整備）

平成13年4月 農業、園芸及び蚕業に関する試験研究及び奨励指導を行い、また、古川農業試験場及び畜産試験場が行う試験研究等並びに農業実践大学（現農業大学）が行う研修等に関し連絡調整するとともに、これらの機関の機能を結集し、農業の高度化に対応するため、農業センターと園芸試験場を統合して「農業・園芸総合研究所」を設置。

平成21年4月 蚕業担当の廃止。

平成31年4月 組織再編。野菜部、花き・果樹部の新設。バイオテクノロジー開発部の再編。